

新入生オリエンテーションキャンプ

新入生オリエンテーションキャンプを終えて

学 生 部

平成四年度オリエンテーションキャンプは、四月二十五日（土）、二十六日（日）の両日、宮島包ヶ浦自然公園キャンプ場で実施されました。新入生一、八九七名、外国人留学生五名、フェロー一五〇名、運営役員二六六名、教職員二二三名の総勢二、五四一名という大規模なキャンプは、二日間とも晴天に恵まれ、無事終了することができました。

キャンプ参加者は、宇品港から船で宮島に渡り、開村式、テント設営、野外活動企画と予定された企画を順調に消化していきました。その企画が進むにつれて、新入生が次第に打ち解け合い活気づいて



いき、キャンプファイヤーに入ると、その活気が一段と高揚し、キャンプは最高潮に達していました。新入生にとってこのキャンプは、自然

オリキャンについて

新入生オリエンテーションキャンプ総局長

法学部法学科四学年 中原 幹 治

オリキャンが終わって、もう一か月が過ぎようとしている。正直に言って、まだ全然実感がわかない。新入生やフェローが、今、どのような思いを抱いているのかわからない。

とにかくオレが、一年生の時は、新入生として、二年生のときは、フェローとして、三年生のときは、事業局チーフ連として、そして今年、総局長として、四回オリキャンに行ったという事は確かだ。そしてオリキャンがオレの大学生活の中で占める割合は大きいかもしれない。だけど、オリキャンが成功したか

の中での共同生活を通じ、広島大学における新たな人間関係を得ることのできた有意義で思い出深い行事であり、また準備に携わった学生にとっては、行事を企画運営していくという貴重な経験であったと思います。

最後に、新入生諸君が今後充実した大学生生活を送られるよう祈念し、このキャンプを実施するにあたり、ご協力いただきました関係者各位に深く感謝いたします。

どうか、面白かったかどうか、よかつたかどうか、今の段階では、オレにはわからない。しかしオレはオリキャンに対して、ベストを尽くしてきた。い

オリキャンで終わるオリキャンはオリキャンではない

新入生オリエンテーションキャンプ運営委員

工学部第三類（化学系）二学年 能 年 義 輝

オリキャンは終わりました。森戸道路で写真を買う人々を見ながら、今頃は

どんな風に新入生の中にオリキャンが位置づけられているのだろうか、去



や、正確には、人生の過去においてベストを尽くしてきた。そして、その中に偶然オリキャンがあった。そして、今の一瞬に対してベストを尽くしている。だから、もっと時間がたつたら、オリキャンがどうだったか、わかるかもしれない。

今は、ただ、あと十年位たって、すぐく天気の良い日の午後、再び、あの宮島の包ヶ浦棧橋に立って、あの心地よい風を感じたいと、思っている。

年の自分を思い出します。

私は体育会少林寺拳法部に所属して、準備役員という形でオリキャンに参加する機会があり、あのすばらしいオリキャンを少しでも手伝えればと思い、そして何よりも自分自身の為に準役をすることにしました。

統制管理局の資材隊となり、いざ何をするのかと考えた時に、そのイメージのない事に気付き、やはり新入生には見えない裏の仕事であるということを実感しました。

自分の仕事は、本番のいつどこで何がいくつ必要か把握し、貸し出すことだったので、学生課や倉庫へ行き、リヤカーで運び、マニュアルを確認し、チェックリストを作る、と資材に追わ



れた四ヶ月間でした。

そして本番、各局・各隊・各個人がそれぞれの仕事をこなし、嵐のように四日間は過ぎ去りました。あの桟橋での見送り風景が脳裏に焼きついています。

部との両立で忙しい時もありましたが、オリキャンで得た経験と友情は、私の生涯のかけがえのない宝物です。

ありがとうオリキャン

新入生オリエンテーションキャンプフェロー

教育学部教科教育学科二年生 尾原美香

、92オリキャンで、私はとつても大事な宝物を得た。仲間。ファイヤー、二五〇〇人が一つになる瞬間、ものすごい力を感じた。総局長を胴上げ。一人一人本当に輝いていた。何かを精一杯やりとげた満足感。打ち込んできたものが終わっ

てしまう達成感、涙がとまらなかつた。言葉にはできない感動があった。新入生もきつと何かを感じたと思う。皆で創り上げたオリキャンだから。宮島で、宝島で、みんなはどんな宝物を見つけたんだろう。

二五〇〇人がオリキャンバカになる、こんな事、二度とないと思う。今しかできないことだから思いっきり青春なんだ。大学生活を充実させたい。後悔したくない。何も残らない四年間なんてつまらないから……。自分から追い求め動いていかないと何も始まらない。くすぶっていかないと何も始まらない。自由な時間をどう過ごすかは自分次

オリキャンを終えて

教育学部教科教育学科 一学年

堀田清美

入学して数日。まだまだ大学生活に不慣れで、交友関係も浅い頃。そんな時に私たちのオリキャンは始まりました。何も知らずに申し込んだオリキャン切符は、私たちに大きなものを与えてくれました。はじめての出会いから一週間の間。その間自分と考え方も進む方面も違う仲間たちと、毎日集まり夜おそくまで、オリキャン当日を目指して準備に励みました。そうした中、今でも心に残るキャンプファイヤーでみんなが持ったロウソクの火はとともきれいで「広大でよかった」と感動したのを覚えています。たくさんの思い出と友達をくれたオリ

キャンは、もちろん成功に終わりました。この成功は、ひとえに私たちと共にオリキャン準備をして下さったフェローさんと私たちが宮島に行く数日前から先に準備をはじめあたたく迎えて下さったスタッフの皆さんの何カ月にも亘る努力のおかげです。心からお礼をいいます。そして、今年で終わりだといわれているオリキャンをなくしてはいけないと声を大にしたいです。このすばらしい広大の行事を続けてほしい、いや続けることがこのオリキャンに参加した私たちの義務ではないでしょうか。